



家事場の パパデカラ

11月は茨城県男女共同参画月間です。11月22日(土)は「いい夫婦の日」でもあります。近年は、働く女性も多くなり、家庭での生活も変わり始めました。今回は男性の家事について考えてみます。

「男は仕事、女は家庭」なんて言っていられない？

「男は仕事、女は家庭」という言葉に代表されるように、日本では昔から性別で役割分担をするという意識が根付いていました。

しかし近年は、働く女性も多くなりました。共働き家庭は増加傾向にあり、男女ともに働く家庭が一般的になりつつあります。(グラフ1参照)

それでも家事・育児は女の仕事？

働く女性が増えていく一方で、男性が家事・育児にかかわっている時間はどのくらいでしょうか？

平成23年の総務省の調査によると男性の1日の平均家事時間は39分、これに対し、女性の平均家事時間は4時間53分となっています。(グラフ2参照)

然として家事や育児などの家庭負担は女性の方に偏っている状態が続いています。仕事も家庭も：女性の負担は増えるばかりです。

パパデカラを發揮しよう！

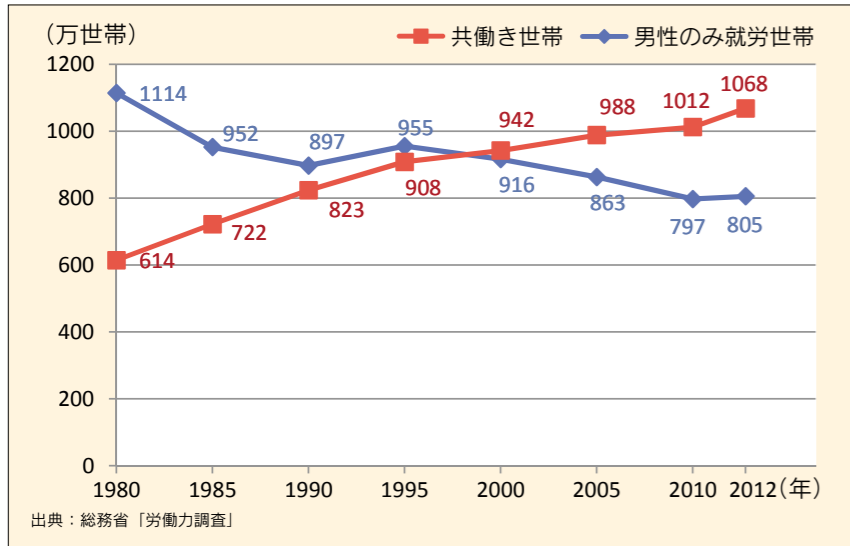
働く女性が多くなる中、実は、男性の家事能力が問われています。

そこで、パパデカラです。国では男性の家事を広めようと「家事場のパパデカラ」という言葉をつくりました。

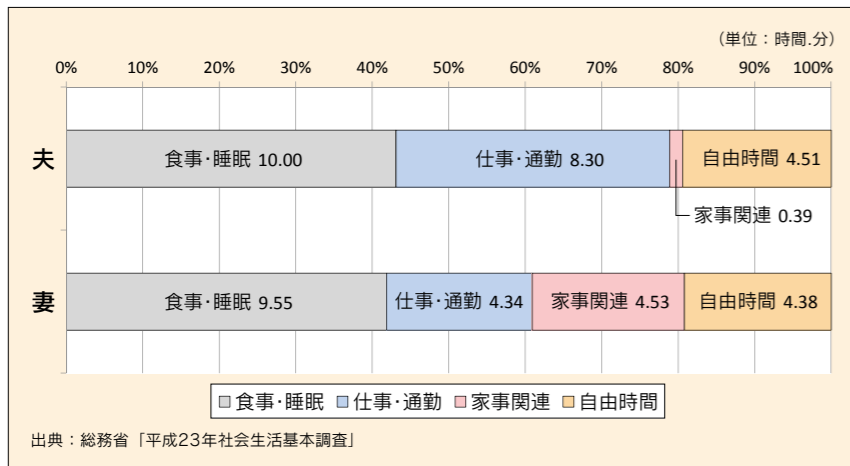
男性の家事ベスト3は「ゴミ出し」「風呂掃除」「食器洗い」となっていますが、最近では「休日の料理」や「掃除」も増加傾向にあります。

男性が家事をすると、女性の負担が軽くなるばかりか、分かち合う気持ちの大切さにも気づき、夫婦の絆が強まると言われています。さらに協力して家庭を築いているという意識も高まります。共に働きながら家庭を築く

グラフ1：共働き世帯数の推移



グラフ2：子育て期の共働き世帯夫婦の1日平均生活時間 (平成23年)



社会全体に好影響

さらに、興味深いデータもあります。

男性の育児・家事への参加は家庭だけでなく、会社や社会全体にも好影響をもたらすと言われています。

厚生労働省が平成22年に行った調査によると、子供を持つ夫婦は夫が休日に家事・

育児をする時間が長いほど、第2子以降の生まれる割合が高くなる傾向があることが分かりました。

休日に夫が家事や育児を6時間以上する家庭では、2人目以降が生まれた割合が全くしない家庭の約7倍に上っています。

男性が家事や育児をすることが少子化対策の貢献にもつながります。

ストレピロム〜ロムは犯罪です

男女が協力して社会や家庭を築く意識が高まる中、困った問題も発生しています。DV(ドメスティックバイオレンス)家庭内の暴力)です。このDVも増加傾向にあります。

DVは配偶者や内縁関係のある男女間に起こる暴力のことをいいます。暴力の形は身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力などがあります。DVは犯罪です。相手が夫婦や交際相手だからといって

て、暴力が正当化されているわけはありません。被害者の多くは女性ですが、男性が被害者となる場合もあります。茨城県警察本部では、平成26年4月1日から、DVやストーカーなどの被害で困っている女性から相談を受けて「女性安心パートナー(女性警察官)」による女性専用相談電話を設置しました。

配偶者や交際相手からの暴力に悩んでいるあなた！ひとりで悩まず相談してください。

女性専用相談電話
パートナー
029-301-8107

茨城県警察では、女性専用相談電話を設置し、女性安心パートナー(女性警察官)が24時間体制で対応しています。

DV、ストーカー、夫婦・恋人間の女性に対する暴力問題、性犯罪の被害に関する悩みなど、女性からの相談にお応えします。

その他の警察への相談は
#9110
(番番の警察署、交番、駐在所でも受け付けています！)

茨城県警察